

■リーダーズ・ナウ [在学生・卒業生インタビュー]

日本で学び、中国で起業を目指す

経済学部でビジネス会計を学ぶ中国人留学生

●経済学部3年次生
江 潔 (浩) さん

国際化の流れが止まらない現代社会。関西大学のキャンパスでも、多くの外国人留学生が学んでいる。その中の一人、江潔(浩)さんは経済学部外国人学部留学生入学試験に合格し、2012年4月には3年次生となった。ホテルのカフェレストランでアルバイトをしながらビジネス会計を学び、語学にも資格取得にも積極的に取り組む。

高校を卒業するまで、中国の大学に進学するつもりでいた江さん。日本に留学する最初のきっかけは、日本の製品技術の高さに憧れていた父の勧めだったという。日本語が全く分からなかったため、1年半、中国国内の日本語学校に通い、日本語能力検定2級を取得した。留学先は語学学校の友人から「人が優しい」「暮らしやすい」などと聞いて、大阪に決めた。

来阪後も語学専門学校で学び、関西大学の留学生入試に挑戦。経済学部の面接担当教員の前では「中国には日本企業が多い。卒業後日本の企業で働く可能性を考え、経済を勉強したい」と、抱負を語った。入学後は国際部の活動に協力。外国語会話交流会の講師として、日本人学生や留学生に中国語を週に1回、ボランティアで半年間教えた。「質問が多く出て、皆さんがとても熱心なことに驚きました」。中国に対する世界の関心の高さを実感したようだ。

経済学部ではビジネス会計専修に所属し、コストマネジメン

トについて研究するゼミに参加。なぜ、コストマネジメントかと尋ねると「直感的に『これだ』と感じました」と微笑み、「会計だけを学ぶより、視野が広がるといった」。併せて、日商簿記2級の取得も目指す。「前回、不合格に終わったのが悔しいです。一生懸命勉強しているのだから、それなりの成果を出したい」。来日後、1級を取得した日本語能力検定も「日本企業から高い評価を受けるには、もっと高い得点が必要」と考え、受験し続けている。更に「短期間でも英語圏に留学して実力を高めたい」と、本格的な英語の勉強も始めた。頑張り屋の江さんには、将来への夢がある。「興味を持っているのは、化粧品です。中国の働く女性はまだまだあまり化粧をしません。状況は絶対変わる。日本の化粧品会社に就職して知識を身につけ、いつか中国で起業したい」。

放課後は、大阪・梅田のホテル内にあるカフェレストランで接客のアルバイトをしている。仕事を通じて多様な日本語が学べるのがメリットだ。「初めは敬語などの言葉遣いに困りましたが、先輩のウェイトレスさんに教えてもらっています。この方は日本のお母さんのような存在です」。「日本のお母さん」の話になると、表情がとても優しくなった。



ECC国際外語専門学校時代のメンバーとお花見



▲江さんが「日本のお母さん」と慕うアルバイト先の先輩と

江 潔 (浩) — コウケツ
■中国山東省、濰坊市出身。高校卒業後、中国国内の語学学校に1年半通い、日本語能力検定2級を取得後、来日。大阪・梅田の ECC国際外語専門学校を経て、2010年4月、関西大学経済学部へ入学。現在は3年次生。日本語能力検定1級取得。趣味は旅行と写真撮影、ショッピング、音楽を聴くこと。

最高の環境で 最高のパフォーマンスを

イチロー選手、斎藤佑樹選手など
プロ選手のマネジメントを担う

●株式会社パウ企画 代表取締役
岡田 良樹 さん—法学部1985年卒業—

オリックスでイチロー選手の専属広報を務めた岡田良樹さんが設立したマネジメント会社には、現在、シアトル・マリナーズのイチロー選手、川崎宗則選手、北海道日本ハムファイターズの斎藤佑樹選手の3人が所属している。普段は選手のインタビューを設定し、見守ることの多い岡田さんに、イチロー選手と斎藤選手のカレンダーを背に語ってもらった。

「面白いこと、人を笑わせて楽しませるようなことをしたい。女の子にモテるにはそれしかない(笑)」。こんな思いで、岡田さんは落語大学の門をたたいた。落語大学は、かつて桂三枝さんも芸を磨いた、伝統ある文化会クラブだ。

「落語では、物語を一人で何役も演じて、人の心の中に情景を思い浮かべさせるようにしなければなりません。道具は扇子と手ぬぐいぐらいしかなく、想像力に働きかける工夫が必要です。1、2年次生のころは、人前で囁くしても受けないし、自分が出ているビデオを見ても全然面白くなかった。ただ一生懸命覚えたことをしゃべっているだけで、相手のことは一切考えていなかった。一方、プロの落語家はこっちへしゃべりかけてくるのです。情景を思い浮かべさせる間を取ったり、考えさせる時間を与えたりして。そういうことに気づいたのが、学生時代も終わりに近づいたころでした」

岡田さんの芸名は、爪田家珈九。先輩にはずいぶん鍛えられた。夏合宿で夜中に叩き起こされて池で泳がされたり、阪急千里線の電車の中で落語をやらされたり。一種の「しごき」だが、それが社会に出て、特に独立して事業を始めてから役立った。

「あまりの恥ずかしさに叩きのめされましたが、そこで羞恥心を消すことが自我を消す訓練になったと思います。世の中では、自分を消すようにしないとイケない場面に出くわします」

岡田さんは、オリエンタリース(現 オリックス)の営業職からプロ野球球団に転向し、イチロー選手と出会った。1994年にイチロー選手がシーズン最多安打の日本記録を更新すると、その翌年から専属広報を務めた。イチロー選手は2001年からアメリカに活躍舞台を移したが、岡田さんも2002年に退社し、自ら会社を設立。プロスポーツ選手がプレーに集中できるよう、幅広いマネジメント業務を行っている。岡田さんは、イチロー選手が成長し、頂点を極め、前人未到の域に達しつつあるのを身近に見てきた。そのイチロー像は？



岡田 良樹—おかだ よしき

■1961(昭和36)年、兵庫県生まれ。85年関西大学法学部政治学科卒業、オリエンタリース(現 オリックス)株式会社入社。89年オリックス野球クラブ株式会社(オリックス・ブルーウェーブ)転出。2002年退社、株式会社パウ企画設立。同社代表取締役。



CASTING MANAGEMENT MERCHANDISE

「すごい人ですよ。私より12歳年下なのですが、学ぶことがいっぱいあります。春から秋にかけて7、8カ月の間、野球のみで、遊び事は全くしない。大リーグは連戦が多く、休みをもらう選手も少なくないのに、彼は休まない。そのかわり、体のケアに対する意識はすごい。18歳のころから21年間、ずっと同じことを繰り返している。名声もお金も手に入っているのに、なにか野球をなめずに、いまだに同じゲームはないと言って、日々のゲームで1点を取ることに、真剣に向き合っています」

イチロー選手のように、海外で成功するための条件は？
「私はイチロー選手と川崎選手の2人しか知らないですが、どちらも覚悟をもって海を渡っています。最初から甘いことを考えずに、自分で退路を断って行っています」

今の仕事で大事にしていることは？
「選手が最高の環境で最高のパフォーマンスを発揮できるようにすることです。ストレスを軽減することも重要です。そのためにも、私生活の中に土足で入るのではなく、迎えられて入っていけるかどうかですね。決して華やかなことではないのです」